

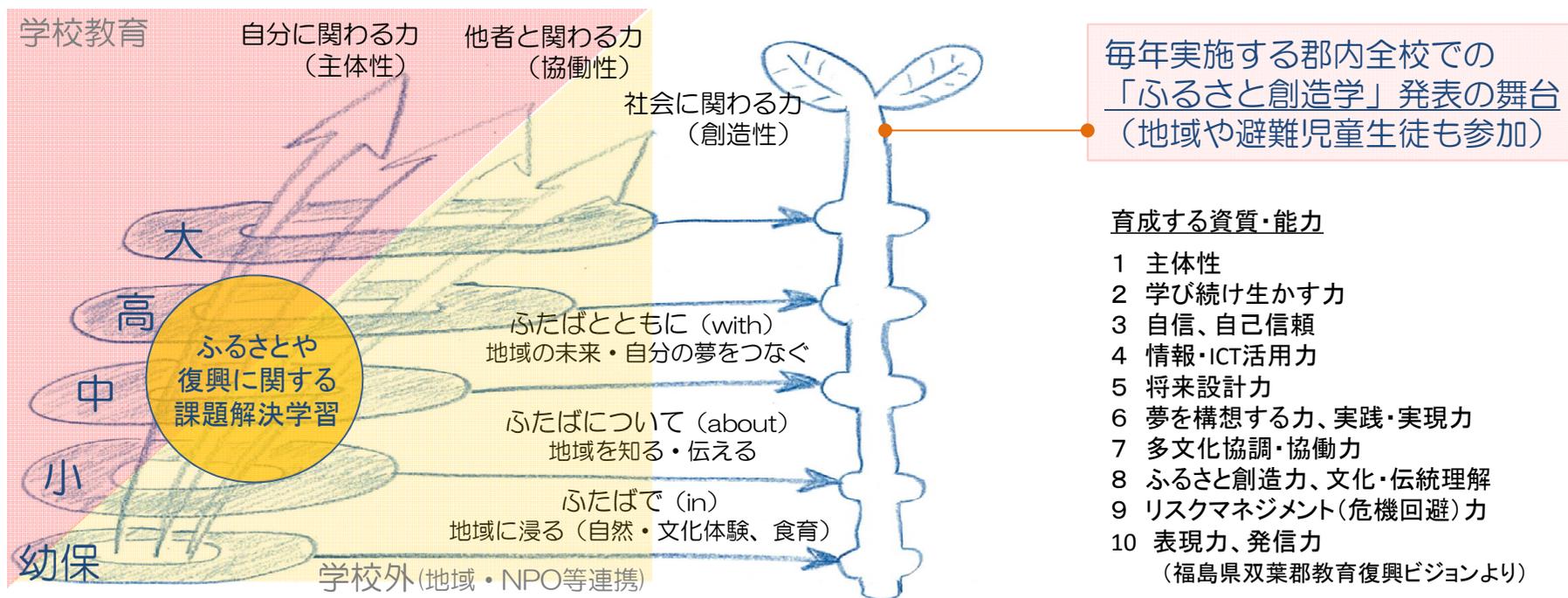
- 双葉郡教育復興ビジョンが目指す「双葉郡の復興や持続可能な地域づくりに貢献し、全国や世界で貢献できる人材を育成」することや、「子供たちの実践的な学びで地域を活性化し、復興につなげる」ことを目指し、郡内各校の総合的な学習の時間で共通して取り組みます。
- 平成26年度は『ふるさと創造学』で下記の資質・能力・態度を育成することを目指します。各校や子供たちの実態を踏まえつつ、自校化した内容で取組を進めて下さい。秋には、郡内全校での「ふるさと創造学」発表会の実施を検討致します。

ふたばから未来を拓く人づくり

(for) 地域貢献・ボランティア活動

ふるさとの復興

地域の復興の取組とも関連づける



『ふるさと創造学』

- ふるさと双葉郡の伝統文化や、復興の課題、復興に向けて力を尽くす国内外の人に触れる
- 自らの生き方とふるさとの未来を重ね合わせて考える
- 実践的な課題解決型の学習 (アクティブラーニング) で実践力をつちかう
(取組例: 伝統文化継承、復興についての提言、震災や原発事故の記録・記憶の継承と発信等)

(ふるさと創造学で特に重視する資質・能力・態度)

ふるさと創造力、文化・伝統理解

ふるさとに生まれた誇りと、文化や伝統を大切にす
る姿勢を持ち、ふるさとの魅力を伸ばせる力

表現力、発信力

被災の経験や復興についての提言を
次世代や国内外に伝える表現力、発信力

参考：双葉郡教育復興ビジョンに記載された育成する資質能力

福島県双葉郡教育ビジョンの資質能力		H26年度「ふるさと創造学」 で重視する力			分類
		小学校	中学校	高校	
双葉郡教育復興の方針	双葉郡の復興や、持続可能な地域づくりに貢献できる「強さ」を持った人材を育成する				
「各学校段階を通じて一貫した価値観の教育目標・カリキュラムによる教育」での理念	創造力と想像力、この2つの力で子供たちの夢と人間力を育て、地域の復興に主体的・協働的に関わる人材を育成する				
基盤となる資質能力					
1 主体性	困難な事象に対して、自らの考えを持ち積極的に取り組む姿勢	○	○	○	主体性
2 学び続け生かす力	様々な体験から主体的に学び続け、実生活に生かす姿勢	○	○	○	主体性
3 自信、自己信頼	自信をもって目的達成に向けて努力する力	○	○	○	主体性
4 情報・ICT活用力	これからの情報社会に対応した、知識・情報や、ICT（情報通信技術）を活用する力	○	○	○	協働性
5 将来設計力	周囲との関わりの中で自らの役割や生きる意味を考え、自らの人生を組み立てられる力	○	○	○	主体性 協働性
双葉郡で特に育むべき資質・能力					
6 夢を構想する力、実践・実現力	経験や学びを通して将来の希望や夢を見出し、その実現に自らを近付ける力	○	○	○	創造性
7 多文化協調・協働性	価値観の違いを乗り越えて周囲とともに活動し、喜びを分かち合いながら他者と協働し、各人が力を発揮する協調性	○	○	○	協働性
8 ふるさと創造力、文化・伝統理解	ふるさとに生まれた誇りと、文化や伝統を大切に作る姿勢を持ち、ふるさとの魅力を伸ばせる力	○	○	○	主体性 協働性 創造性
9 リスクマネジメント（危機回避）力	放射線の影響等に関する知識とそれを実生活に生かす力（リスクマネジメント力（危機対応能力））	○	○	○	協働性
10 表現力、発信力	被災の経験や復興についての提言を次世代や国内外に伝える表現力、発信力	○	○	○	主体性 協働性 創造性

取組例1：浪江小学校「ふるさとなみえ科」

- ふるさとと、復興に努力する大人の生き方や、大人の描いている復興の夢(計画)に触れることを通して自らの生き方を考える内容である。その際、「実現できないふるさとの未来の夢を描く」ことで終わらないよう留意して取り組んでいる。
- 子供たちが取組内容を新聞として発信し、子供たちの復興に向けた想いや考えで大人を揺り動かし、復興への取組を加速させることも目指している。
- 総合学習の70時間で取り組んでいるが、他の教科等にも派生し実質は年間100時間程度となっている。
- 成果として、「児童が大人達の実践、例えば浪江焼きそば全国に宣伝することの意味を聞き、実際に食べる等の体験、そしてその体験を新聞にまとめる、大人達へインタビューをする」等のきめ細かな学び方の習得があげられる。また、本取組を通して学力向上にもつながっている。また、習得した学び方を中学校につなげることも狙っている。

「ふるさとなみえ科」～学習の様子～

事例紹介を掲載予定
(調整中)



取組例2：大熊中学校「放射線教育」

大熊町の総合学習では最低30時間を「放射線教育」にあてることとしている。内容面には原発避難の背景や、復興について考える取組も含めており、概ね下記の流れ。

- 1 学習の出発点としての問い(なぜ会津に避難して居るのか、福島の実状はこのままで良いのか等の問いから、大元の原発事故が起こったという事実について考える)
- 2 放射線についての調べ学習(放射線の特質や放射線からの身の守り方)
- 3 大熊町の復興・再生をするためにはどうしたら良いのか考え提言する(大熊の復興に子供も関わるべきであるし、子供の声も何らかの形で復興に反映させていくことが必要)

事例紹介を掲載予定
(調整中)